

今月の表紙は、石井旭舟。フィールドは、冬のメッカ、横利根川である。

2日前の大雪のせいか、川全体が希に見る食い渋りに包まれていた。

そして、終盤、ようやくアタリが…。

「きたっ！」

1枚の大切さ、嬉しさを再確認する、そんな釣行となった…。



## 特集

栄光を掴んだ男達 PART II

マルキュー チョーチン王座決定戦2連覇達成 烏内正道  
バリバスカップへらトーナメント2連覇達成 杉山達也

## 特集 II

冬の食わせエサを制覇する ウドンのすべて 後編  
稻毛利夫 野本昌明

- 9 特集  
栄光を掴んだ男達 PART II  
マルキュー チョーチン王座決定戦2連覇達成 烏内正道  
バリバスカップへらトーナメント2連覇達成 杉山達也
- 177 特集 II  
冬の食わせエサを制覇する ウドンのすべて 後編  
稻毛利夫 野本昌明
- 6 ★編集部厳選・この冬楽しみたいスーパー管理釣り場!  
清遊湖(千葉県沼南町)  
筑波湖(茨城県明野町)  
羽生吉沼・加須吉沼(埼玉県)
- 7 ★野の風景  
荒川日河川 明秋・釜虎(埼玉県)  
荒川日河川 石屋下・丸堀(埼玉県)
- 8 新連載 名手・石井旭舟がいく、へら鮎出会い旅… へらぶな浪漫街道  
《第二回》横利根川(茨城県／千葉県)
- 22 新連載 スーパーアングラー小池忠教のエサ合わせ大全  
《Vol.2》極寒の清遊湖を2種類のバラケで攻略!
- 28 新連載 大型狙いの楽釣宣言! 山内研作&生井澤 聰  
《第2回》印旛新川(千葉県八千代市)&利根本流(茨城県利根町)
- 36 新連載 棚網 久の対決mode 1, 2, 3!  
《Battle.23》友部湯崎湖に戦慄が走る!!  
challenger:天笠 充 tournamenter:中島 上
- 118 新連載 竹は生きている  
②竹は強くて粘りが身上
- 120 新連載 田辺哲男の「これってどういうことよ!?」  
《Vol.2》『イーグル釣法』ってどういうことよ?  
つり凧椎の木湖(埼玉県羽生市) ゲスト 小林恭之
- 123 フィッシングレディ  
小林素子さん さくら湖(茨城県)
- 124 新連載 西日本川釣り紀行 北川穂積  
《第2回》美嚢川(兵庫県三木市)
- 128 上州屋グループへら鮎用品充実店紹介  
《第27回》上州屋山形店(山形県山形市)
- 130 熱血釣り女・吉川ひとみがいく!「へらってヤバイわっ!!」  
《第8回》「セット釣り初挑戦でビッグフィッシュを狙っちゃえっ!!」 寺山沼(埼玉県)  
GUEST:石井旭舟さん
- 134 マルキュー新製品発表会 雑誌社対抗モニターバトル 隼人大池
- 136 ダイワスーパーバトルカップ へら 2002 野田幸手園
- 139 第8回 ダン クラブ対抗へら釣り大会 筑波流源湖
- 140,148 列島縦断 旅するカメラ  
《千葉県29》三芳村～館山市周辺 根方のセキほか
- 184 新連載 杉山達也のSPLASH BEAT II  
《Vol.2》隼人大池、自由釣り大会を攻める!
- 190 新連載 頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男  
《今月の釣り人》一本の浮子ですべての釣りを! 遠部 孝さん
- 192 こだわりの店「黒べゑ」提供 新春お年玉プレゼント

- 50 新連載 荘野諒爾 へら鮎釣り 何でも相談室  
《第2回》冬のセット釣りと底釣りの疑問を説き明かす

- 53 江成公隆のトーナメンター、復活への道。  
佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!  
《Vol.8》北城 錦の底釣りゼミ② in中島屋(?)

- 58 ガツツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記  
《第7回》金山湖(群馬県太田市)

- 62 新連載 GOZYUKKAMI TREASURE HUNTER アマヤン 天野正由  
《その2》郷に入らば郷に従え 荒川～相模川

- 68 水辺のプラネタリウム 吉本亞土  
《今月の星空》佐屋川本寄せ

- 73 新連載 元気が出るへら鮎 西田美明  
《第2回》明かりが欲しい…

- 78 新連載 野べらはいすこ… 人間カーナビ稻毛利夫の実釣! 釣り歩き  
《第2回》石関の池(栃木県矢板市)ほか

- 82 新連載 電話で突撃!! 関東近辺釣り場情報

### ★エリアレポート

- |                |      |
|----------------|------|
| 86 甘木公園の池(福岡県) | 河口正伸 |
| 88 新春の北陸の釣り場   | 山本一朗 |
| 89 分川池(奈良県)    | 前田誠志 |
| 90 筥川本寄せ(愛知県)  | 後藤 誠 |

- 92 野田幸手園新聞

- 96 新連載 最狂ヘラ戦士養成所“鮎の穴” 高橋謙司  
《第一話》「キミにもなれる! 最狂ヘラ師!!」

- 102 新連載 本誌イケイケ編集長が斬る! 業界のタブーに迫る!!  
《第2回》どうしたらモニターになれるのか?②

- 106 ワクワク管理釣り場情報

- 110 小売店情報

- 145 新連載 旅するカメラ 取材番外 思い出話  
《第2回》男4人! 秋田～山形～米沢 千五百キロの珍道中!

- 149 竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記  
《その11》坂川放水路(千葉県松戸市)

- 156 好きです! へら鮎釣り! 松戸 健  
《人物往来44》森崎政典さん

- 159 第6回 椎の木湖主催 フレンドシップ選手権大会

- 160 JBへらプロトーナメント関東・関西大会 清遊湖・レイクサイド水茎

### ★へら鮎BOX

- |                      |
|----------------------|
| 161 新連載 里ちゃんの新米編集長雑記 |
| 162 情報地獄ミニ           |
| 164 ボイス              |
| 169 セッキーのちょっと一息      |
| 171 プレゼント発表          |
| 172 釣果予想クイズ          |

- 175 広告索引

- 176 編集後記

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメントー、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!

〈Vol.8〉 北城 錦の底釣りゼミ② in中島屋（!?）

様々な反響を呼んだ先月の「底釣りゼミ①」。

「北城 錦」という希代の名手が、  
「江成公隆」という希代の聞き手（!？）が、  
相乗効果を生みだして作り出す世界に、我々は酔いしれた。

しかし、本番はまだまだこれから。

さらにディープな世界へと突入していくのだ…。

これを見逃したら、

あなたは一生、『宝物』を知らないままとなる。

女房を質に入れてでも読むべし！ by 里ちん

☆新年のご挨拶…といふか「お詫び」  
年明けにこの本を手にした皆さん、あけましておめでとうございます。

☆コピー＆ペースト  
現代の出版物の大半は、DTP（テスクツ）  
（パブリッシング）で製作されています。こ  
れは完成後の印刷物と見た目が全く同じもの  
(字体やレイアウトや写真など全て)をパソコ  
ンの中で作ってしまうという手法です。これ  
の何が凄いのかを説明しましょう。

「終わってみたら優勝」と「終わってみれば  
優勝」  
じうでしょう。どちらかといえば「れば」  
の方が結果が分かっていたような感じがしま  
せんか？途中はボケちゃつたけど、結局は  
俺が優勝。ま、当然だけどね」という感じ。  
この違いにこだわって「たら」にしていたの  
に、「れば」にされてしまつたら痛いですね。  
「あいつは生意気だ」と言われかねません。日  
本語のニュアンスはとても微妙で難しい、と  
思います。このケースではどちらでも大差は  
ないですし、文章の前後で意味は通ってしま  
います。思い込みによるミスのために読み返  
しても気付きにくいのです。

え？ 原稿はもう消去しちゃいましたしい

いておきながらもまだ続く本編と無関係な話  
：（汗）。

「あいつは生意気だ」と言われかねません。日  
本語のニュアンスはとても微妙で難しい、と  
思います。このケースではどちらでも大差は  
ないですし、文章の前後で意味は通ってしま  
います。思い込みによるミスのために読み返  
しても気付きにくいのです。

これは編集者のミスという事になりますが、  
出版されてしまえばもうアウトですから。こ  
ういうミスを防ぐため、文章はデジタルデ  
タ（フロッピーやメール）で投稿する事をお  
勧めします。編集者にとつても入力し直す手  
間が省けるのでメリットです。

もつとも編集者は「フロ」ですから、原稿

がデジタルでも「手直し」とい  
うものが入ります。誤字・脱字という範囲だ  
けでなく、文章の構成やその内容についても  
当然ミスが入ります。僕の原稿の場合、編集  
部の里ちゃんかいじくってくれます（笑）ので、  
安心してお任せしているんです。僕が原稿を  
メールで送ると里ちゃんから受け取ったとい  
う返事が来ますが、そこには大抵「どこも直す  
ところはありませんでしたヨ！ バッヂで  
す！」と、お愛想が書いてあります。でも実  
際には刷り上がり本を読んでみると、自分で  
は気付かなかつた部分で、彼の細やかな心配  
りが見受けられます。もちろん原文のニュア  
ンスはそのままです。彼はホントにプロだな  
といつも感心させられます。（里ちゃん注…素人  
は持ち上げてナンボって感じつかね♡）

ところが、先月号では何か違和感が…？

よく見ると、「サワリ＝返し」だからこそ  
あつたはずなんです。「北」ところで、「返し  
の？」というセリフでした。話のつながりが  
無くなるような、逆に面白い効果でもあるよ  
うな…。で、里ちゃんに「どうなの？」と聞い  
たら…、里ちゃんにもミスはあるようです（笑）。  
（里ちゃん注…その一文は見た記憶ないんすよね

い。

え？ 原稿はもう消去しちゃいましたしい

「トーナメントー復活への道。」とは銘打つ  
たものの、この1年を振り返ってみれば、やは  
りトーナメントに参戦出来るような時間は  
作れませんでした。もちろん、その準備と  
してのトレーニングに充てるべき時間も。こ  
の先はちょっと分かりませんが、先月の北城  
さんの言葉のよう、今年もこの企画に専念  
するという可能性は高そうです。まだしばらく  
は、「釣れない奴の能書き」になってしまい  
そうですが…。いえ、「釣りしない奴の能書き」  
ですね。もっとタチが悪いです。でも一応僕  
ではなくてゲストの先生の技術論という事に  
なっていますので、今後も御容赦願いたいと  
思います。

自分としては先生のお話を聞くだけでかな  
り分からず、いつか時間的余裕が出来  
た時には是非教わった事を活かしたい。そ  
う思っています。ただ問題なのは、自分では  
勉強になっていたとしても、読者の皆さんに  
役立っているのか？ 先生の言わんとしている  
事を的確に伝えられているのか？ という  
点です。先月号のVOL.8で「えな理論がさつ  
ぱり分からぬ」というコメントを見つけま  
した。自己満足で終わってしまっているので  
はないだろうかと、冷めた目で見つめ直す良  
いきっかけを頂いたと思います。運動してい  
るホームページの掲示板に寄せられるコメン  
トには、「お誉めの言葉」しかありません。皆  
さん大人ですから。それを鵜呑みにしていた  
自分に気が付いた、という訳です。この気持  
ちで先月号を読んでみますと、自分でもかな  
り興奮しながら勢いで書いた事が分ります。  
いつも前置きの長い自分ですが、いくらなん  
でもくど過ぎる気がしてきました。多くの読  
者が退いてしまったのではないかと思うが、  
先月の原稿を書いていた時点でも、それを見  
越して「今月号はサフリだが、次回からは濃  
いなどと書いてみたわけですが、「そんな事  
を書くスペースがあるのなら、本編をもっと  
載せろよ」という声が聞こえて来そうです。  
重ね重ねご容赦願いたいと思います。と、書

先ほど「原稿を流し込む」と書きましたが、  
流れ込むための素材（データ）はデジタル化  
されていないといけません。これは文章原稿、  
写真、図など全てに当てはまります。読者が  
の僕なりに思い付いた事を書いてみたいと思  
います。

先ほど「原稿を流し込む」と書きましたが、  
流れ込むための素材（データ）はデジタル化  
されていないといけません。これは文章原稿、  
写真、図など全てに当てはまります。読者が  
アナログのデータを投稿した場合、編集部内  
でデジタル化の作業が必要です。写真や図の  
場合、スキャナーという装置を通してデジタ  
ル化されます。スキャナーの性能は年々上  
がっているのでアナログデータ（ネガでもポジ  
でも）で投稿してほぼ問題ありません。問  
題なのは文章原稿です。編集者の手入力でデ  
ジタル原稿へ換算されるわけですが、この時  
に読み進める読入力が起こり得るという  
事が問題なのです。字が汚いから読みづらか  
ったという話ではなく、たとえ綺麗な字の原  
稿であつたとしてもあります。読み違いは  
その人の思い込みですから、ワープで印刷  
された綺麗な原稿でも意味がないのです。  
例えば、この二つの文章を比べてみて下さ

い。

ところが、先月号では何か違和感が…？

よく見ると、「サワリ＝返し」だからこそ  
あつたはずなんです。「北」ところで、「返し  
の？」というセリフでした。話のつながりが  
無くなるような、逆に面白い効果でもあるよ  
うな…。で、里ちゃんに「どうなの？」と聞い  
たら…、里ちゃんにもミスはあるようです（笑）。  
（里ちゃん注…その一文は見た記憶ないんすよね

# 北城 錦の底釣りゼミ②

～底釣りゼミ、現在も進行中！～

12月4日、横利根川へ追加取材に出掛けました。僕の原稿（とりあえず3ヶ月分位の）を読んで北城氏の理論に興味を持った里ちゃんも一緒にいました。氏と面識がない彼は氏の人間像にも興味津々のようでしたので、僕はあえて（？）30分ほど待ち合わせの時間に遅れていきました。

僕の原稿はゼミ本編に限って言えばかなり先まで書き上げていたので、自分はのんびり「納竿」と洒落込むつもりでした。しかし「北城ワールド」再噴火、です（笑）。今回の取材、釣りはたったの5時間で、お話しは何と9時間！（ファミレスで食事をし、出る時にお腹が空いていた経験は初めて）氏の理論の微

妙なニュアンスをより正確に伝えるために、すでに書き終えていた分への大量の修正・加筆が発生。「のんびり」は吹き飛びました。さらに新しい話も飛び出し、「それ、後で読めるの？」と氏に心配されてしまうほどノートはミミズで真っ黒…。「今日はこれ位で勘弁して下さい」と、コーチをお願いしておきながら最後は自分でタオルを投げてしまいました。次にお会いするのがコソイ…。こんな書き方をするときがいかにも「ノーガキたれまくり」な人にとらえちゃいそうですが、そうではないんです。僕がメモっているのをいい事に、矢継ぎ早に質問し続けるお気楽な奴が隣にいたんですね。

江成公隆

「ズラシの効果」の事実と、その応用。

北：ズラすとアタリが出にくいと思つてしまつたのはなぜか。そもそもアタリはハリスが張つていなければ出ないものだ。ズラすと張らない？ いえいえゆるやかに張つているという話をしたよね。決して寝ないと。ということは、アタリは出ているけど、ある程度軽減されて現れてくるという事だね。決してアタリが出ていないわけではない。もし本当に出ていないとしたら、そりやズラし過ぎだ（笑）。何にでも適度な比率がある。軽減されたアタリについては、仕掛けのトータルバランスでカバー出来るならば、魚の都合を聞いてあげるべき部分だ。

江：そう言われば、ズラしてそんなにアタリがつき出るわけないのに、強めのアタリを追つかけ過ぎていたかも知れません。僕はトントンが基準なのですから…。

北：ほら…。やっぱりちょっと誤解しているんだね。強いアタリを追つかけ過ぎという反省はいいと思うよ。でも、アタリがはつきり出ないという解釈が違うんだよね。今しゃべったばかりだけど、ズラしてアタリは出でないわけじゃないんでしょ。アタリがはつきり出るのは、むしろトントンの方なんだよ。活性が高い時はいいけど、渋い時や厳寒期にはつきりと差がでる。理由は分かるかな？

江：…。

北：じゃあ、早い段階で返しが出ているのはどうつかつけ？

江：…。

江：もう少し説明するから、聞いててね（笑）。もちろんいいアタリで食つて居る場合もあるよ。シモリっぽなし（エサが大きいまま残つての状態など）でアタッて食つてくる彼らは、大きいへらである事が多い。これは活性が同じならつていう前提だけね。一般的には大型は動きは鈍いし警戒心も強い訳だから、例えば新規の中での型による固体差という事になるかな。吸引の力は魚体に比例するというデータは採れるけど、そういういへらしかアタれないのなら、釣果は伸びない（笑）。大きいアタリを出すつて事はそれだけ抵抗が大きいってことだ。だからはつきりしたアタリで釣りたいってのは、ホントに人間都合でしかないんだよ。だってアタリに入ったアタリは決まって居る。だからはつきりしたアタリで釣りたいってのは、ホントに人間都合でしかないんだよ。だけど、バランス状態なら小さい力で吸引込めば、抵抗が少ないということになるんだ。比較的安心して食つている証拠なんだね。小さなアタリで釣れている時の大きなアタリはおかしいんだよ。強めのアタリで釣れ続いているなら別にいいけど、へらにしてみればかなりギリギリの状態で釣つてるっていう自覚が必要だね。最初に、俺的には「ツン」じゃなくて「返してムズや、ムツ」と言つたのはこれが理由。ここまで聞いたら、ズラシ気味とトントンどちらがいいかという議論は不毛だと理解してもらえるか

たところではかなりバランス状態に近付いている。この時、ウキは下へ入りやすくなつてゐる。これがアタリの出方に影響してくる。つまりバランス状態ではきちんと水中の動きを伝えられ、アタリが出やすくなっているんだ。反対にウキに余分な負荷がかかっている（ナジンでいる）状態では、小さい動きは消されてボヤけだから強い力が必要になる。ちょっとは溶つたらそんなに強く吸い込んでくれるだろうか？こんな時にウキを動かしてくれるありがたい強アタリつて、一体何だろうね？ ということは江成君が大好きなトントンは…？

江：…スレが多い事になります…（泣）。「強いアタリの危険性」ってこれですね？

北：もう少し説明するから、聞いててね（笑）。もちろんいいアタリで食つて居る場合もあるよ。シモリっぽなし（エサが大きいまま残つての状態など）でアタッて食つてくる彼らは、大きいへらである事が多い。これは活性が同じならつては大事なことだからね。底がいくら安心して食べたいから、警戒心はゼロじゃない。だから必要以上の力では吸わないと思うよ。アタリの大きさはアタる前に決まつて居るためには水でエサがアオられるわけだ。もちろん他のへらが動かしたかもしれないけど、この時に吸い込むために必要な力はどうやらは前ビレを動かして停まろうとするよね。それは結果なんで、順序が違うんじゃないですか？

北：ちょっとと説明不足だったかな。あくまで俺のイメージなんだけど、エサに近付いてきたへらは前ビレを動かして停まろうとするよね。そのため起つた水流でエサがアオられるわけだ。もちろん他のへらが動かしたかもしれないけど、この時に吸い込むために必要な力はどうやらは前ビレを動かして停まろうとするよね。それは結果なんで、順序が違うんじゃないですか？

江：…はあ…。そう、ですかねえ…。それなら…概に言えないんじゃですか？ それと、アタリが○○だから、抵抗が○○」という最もかひつかかるような…。あ、抵抗が大きいから小さいアタリになるんじゃないですか？ 抵抗が小さいから大きいアタリになるのでは？ そうじゃない。

江：…。ふんふんって聞いちゃいそうなんですが、何かひつかかるような…。あ、抵抗が大きいから小さいアタリになるんじゃないですか？ 抵抗が小さいから大きいアタリになるのでは？ そうじゃない。

江：…。

江：…。

江：…。

です…。でもまるつきり逆なんで、全然繋がらなくてパニックしそうなんです。ちょっと考へる時間下さい…。

北・嫌だね（笑）。俺が繋げてあげよう。江成君は状態のいい時しか釣れてないんだよ。北斗でも、年明けの横利根例会っていつも釣れてなかつたでしょ、11月の横利根は結構釣るのに。つまり放流物が一段落したらお手上げだったってことだね（笑）。

江・…。（ガーン）確かに…。いつも魚はいたのになあつて感じてはいました…。北・いや、半分冗談だよ。場所外してたかもしれないし。

江・え、半分だけですか（笑）。じゃ、ちょっと質問です！ 活性の低い時は今のお話でもう降参なんんですけど、活性が高い時にちょっと矛盾があるような気がしてきましたよ？ ダンゴで底釣りしていくトントンだとウキが動き過ぎちゃうんで、ズラシを多く取つてアタリを殺すつてよく言われますよね。これはどう説明します？

北・ズラシ幅のせいでアタリが本当に消えるのかがまず疑問だね。ハリスは寝ないでしょ？ ゆるやかに張つているんなら、動きは小さくても出るはず。活性が高いならなおさらだ。これを説明するには別の視点が必要だね。江成君の言う「なじみ際のサワリ」も含めて説明します？

ズラシを多く取るという事は、オモリの位置が下がるということ。オモリがナジミ切つた後（＝垂直でいえば底方向への落下運動、水平でいえば、ウキのある方向への横運動の停止後）に、エサがどういう動きをして落ちるか。とりあえず円弧を描いて落ちる事にしておく。魚も邪魔しない前提でね。オモリが下がれば下がる程、この円周は短くなるよね。落し始めから着底するまでの時間も短縮になる。ハリスを詰めるのと似たような効果があるね。どう？これが一般にアタリやサワリを殺すと言われているメカニズムだ。タナの凝縮という話だったって訳。ウズリ対策とも言えるね。トントンやもしくは切り気味の場合は、一番円周が長い

し落下時間も一番長い。サワリを出しやすいといふ説は間違つてないと言えるね。

でもこの二つの「長さ」が、直接サワリを引き出すという理解じゃマイチだ。円周を使いつついるからこそ、ハリスが必ず張るという話もしておかないとね。

今度は実際のエサの落下を考えてみよう。オ

モリがナジミ切つた直後、オモリによる引っ張りから解放されたエサは、途中までは自由落下だろう。しかしエサがオモリの真下付近から自由落下を始めた限り、どこかで再びハリスは張り、そこからオモリ方向へ円弧を描いて落ちていく。この間がサワリをウキに伝えるタイミングだね。ここで円弧を描かないと言う人がいるけど、トントンなら間違いなく一瞬でも描く。ハリスが張りながら落ちて行くという事は、ハリスの長さは一定なんだからオモリを中心として必ず円弧を描くという事になる。少し考えてみれば分かる事だ。もしさうでないとしたら、エサの重さは突然ストーンとあらわれる事になる。ハリスがからんだ時にオモリと一緒にエサの重さもかかる時の、あのスピード感と同じだろ。釣りをしていて毎回この動きが出ていた憶えはないなあ。まあいか、話を続けよう。ズラシを多く取つた場合には、落下を始める位置によってはハリスが張る前に着底してしまう可能性がある。ナジミが出ないという結果になり、当然サワリもアタリも出ない事になるわけだ。最初にアタリを殺すという説明をした時は円周運動が前提だった。ハリスの張りを合わせて考えると、なるほど何も動かなくなってしまう。完璧な落とし込み自体無駄つことに手したらタチも違うかもね。釣り人側でそれを理解していれば済む問題と思うかもしれない。場合、アンカーの度合い（ハリスの角度、ナジミ）が毎回変わってしまう事を意味する。下手したらタチも違うかもね。

北・こういう話の時、たいてい「ウキの立つ位置に完璧に落とし込む」という前提」が付いてますよね。釣り人の技量の問題もあるけど、超人だと仮定して毎回同じところに仕掛けを落とす事が出来たとしよう。しかし実際は水中にも様々な要素があつて、なかなか思い通りにはいけないものなんだ。今までほとんどの前提を受けなかつた理由はそれ。でも今度はこの前提で話してみよう。

完璧に落とし込めた後は、エサの落ちる位置は自然とさせ、へらまかせという事になつてくる。理論上は、上から見てオモリを中心として360度どこへエサが落ちるか分からぬ。この場合、アンカーの度合い（ハリスの角度、ナジミ）が毎回変わつてしまふ事を意味する。下手したらタチも違うかもね。

北・完璧に落とし込めた後は、エサの落ちる位置は自然とさせ、へらまかせという事になつてくる。理論上は、上から見てオモリを中心として360度どこへエサが落ちるか分からぬ。この場合、アンカーの度合い（ハリスの角度、ナジミ）が毎回変わつてしまふ事を意味する。下手したらタチも違うかもね。

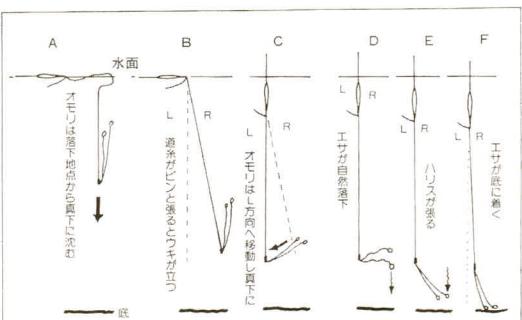


図2 へら鮎89年3月号P.188より

ウキが立つ位置よりもやや沖目の振り込み。魚がないという前提。AからFまでが、ナジミ切るまでの流れ。仕掛けのテンショは当然沖側（R側）から

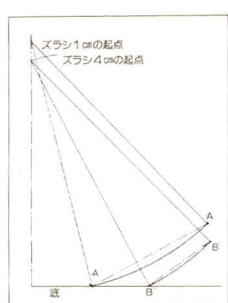


図4 へら鮎89年3月号P.191より  
オモリとエサが45°の時点でハリスが張り、ナジミがウキに現れ始める長さのハリス（一本）のズラシの量による落下的軌跡変化

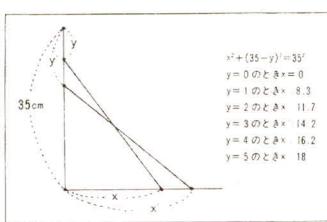


図3 へら鮎89年3月号P.191より  
便宜上ハリスは一本で35センチ。落下を邪魔する要素は何もないと仮定した場合の、ズラシの量によるオモリの位置と落下地点との相関図と計算式

## 「完璧な落としこみ」の罠

(笑)。ならば、「出来るだけ一定のやや沖田への落としみ（現在は「やや振り切り」と呼ばれるようです）」だつていい。常に同じ方向からテニションをかけてやる事で、水中での落下をだいぶコントロール出来るようになる。俺は昔からそうしてる。ま、完璧な落としみは理論上の事であつて、ありえないから別にいいけどね。そんな事したら仕掛けも絡みやすいしさ（笑）。仮にオモリの真ト工サが落ちて最初はナジミが出なくて、そのうちいくらかはナジミが出てくる事もあるでしょ。実際の水中は完全な止水はまずありえないから、何かしらのテンションにみんな頼つているはずなんだね。気付いていないだけで。それと本人は完璧な落としみをしているらしいんだけど、かなり盲目な人はたくさんいるし（笑）。納得？ 江..もうお腹いっぱい、消化不良の寸前です。



▲中島屋での江成公隆と北城 錦。  
北城の口から、「神の言葉」が次々と飛び出す…（里）

図5 <へら鮒89年3月号P.190より>

ズラシをとった場合の「完璧な落としみ」での危険性

北..理論上の話の難しさについて説明したついでに、「自分なりの基準」という話にも触れておこう。釣りの解説書というものは、何だからだ「チャゴチャ」と能書きを並べてみたって、最後はよく「後は読者の皆さんとのウキの動きに合わせて…」とか、「自分なりの基準で判断して下さい」なんて言葉で締めてある。自分なりの基準が確固たるものとしてあればいいけど、ないから真剣に解説を読んでいる初心者は、これじゃ途方に暮れちゃうよね（笑）。

でもこれはある程度は仕方がない事なんだよね。解説書の中の事例に対して「あ、これは先週の状態と同じだな」と、オーバーラップ出来ないと話すにならない。いくらか経験もない「誤差」にはどんなものがあるかくらいは知つておきたい。

テーマは底釣りということなので、やはり水深の測り方とナジミ幅が大事なことかな。タナ取り方法による誤測という問題は、それこそあちこちの記事で取り上げられているから詳しい話は省こう。あ、ここで言うタナ取り方法の誤測つて、おもいつき斜めに測つちゃうという話じゃないよ。タナ取りの際の道糸の張りの差の事だからね。色々な方法があるけど好みだね。それぞれメリット・デメリットがあるから。要はどれを自分の基準にするかなんで、優劣をつけ必要なんてない。でもやっぱり誤測よく測り終えた後に道糸のたるみ分浅くなつて底を切るという話があるけど、それは水槽実験での話。余程極端に張らせて測らない限り、深く誤測することの方が多いはずだよ。糸のク

は理解できないだろう。そこで自分の釣りに置き換える際、セッティングの違いという壁は乗り越えられないが、他人と比較した場合に生じる「誤差」にはどんなものがあるかくらいは知つておきたい。

江成君は底釣りといふことなので、やはり水深の測り方とナジミ幅が大事なことかな。タナ取り方法による誤測という問題は、それこそあちこちの記事で取り上げられているから詳しい話は省こう。あ、ここで言うタナ取り方法の誤測つて、おもいつき斜めに測つちゃうという

江..え?いや、その…、急に言われても…。いつも何目盛りナジませて、こういう感じで上がって来てからのアタリだとか、リズムとかそういう答えをすればいいんでしょうか?

北..ほお…。じゃ、江成君なりの基準をしゃべつてもらいましょうか?

江..え? いや、その…、急に言われても…。いつも何目盛りナジませて、こういう感じで上がって来てからのアタリだとか、リズムとかそういう答えをすればいいんでしょうか?

北..そうそう。それ。底釣りをやる人はみんな持つていてる感覚だと思う。みんなが言う「自分の基準」ってコレでしよう。釣れる時のウキの動きはいつも同じなんだって感覚は、みんな経験で持ってるんだね。これはとても大事な感覚だ。ところが、みんな自分のホームグラウンドの水深が基準になつていて、それを忘れてる

江..あります! 釣ついててちょっと不満なんですよ。ごく浅い場合なんか、タナ取り斜めだったヨー(泣)とか思って、どんどん切つていつちやうんでさけど、あとは沖に振るため、ウキがデカ過ぎたかな、とか。竿振

落ちはどこで取つているかなども知らない無理。エサのブレンドと同じで、ズラシ幅を聞いて真似しただけじゃ釣れないよって事だ。

江..先生、それくらいは分かつてますよ(笑)。僕はタナ取り方法も、フロートと重めのゴムを組み合わせて測る方法と、軽めのゴムだけで測るので両方使い分けてるくらいですか。だから自分の釣りの中での誤差つていうのも、他の人よりは意識していると思ってます!

北..ほお…。じゃ、江成君なりの基準をしゃべつてもらいましょうか?

けではなく、実は自分の釣りの中でも存在するという事が意外に見落とされがちなんだ。水深が変わると使うウキも換えるだろうから、同じタイプのウキで、道糸の張り具合もほぼ同じウキをいつもチョイスするという前提で話そう。まず、いつもの池より浅い場合。いつもの感

## 【自分なりの基準】の誤差を知ろう。



▲メディアに載った横利根で釣る北城 錦の写真は、おそらく過去に数え切れない程あるだろう。そして、これもその内の1枚となるのだ…（江成撮影）

りが未熟なもので…。でもこれじゃ道糸の張り具合が同じウキという前提には反しませぬ。

北：振り込み法の差だけなら、基準が15尺いっぱいの人が、8尺いっぱいで感じるケースは説明しにくいね。深い時はどう感じる？

江：けつこうズラしても思ったよりナジンじやケースがあるように感じます。僕は管理釣り場程度の流れでは長竿いっぱいの底釣りでも、どちかっていうと軽めのゴムだけで測る方が多いんですよ。だから実際に水流の影響は受けた状態で測っているわけで、実水深より深く測っている事はあっても、短く測る事はないと思うんですが…。とりあえずいつものナジミを目指してズラしていくんですけど、かな

りウキを上に上げないといつものナジミにはなりません。深い気がします。逆に、いつものナジミになるまでズラしたんじゃイマイチの時があります。深い分、魚が素直だからシモリっぽい気味でも食うのかな？なんて考えてみたんですけど、わけ分かりませんでした。

北：流れがあれば穂先で引っ張ってもシモリ、江成君のズラした釣りのデータはあてにならないからなあ（笑）。ナジミ気味の設定でアタるのなら、ズラしてアタリが出ない事はないんだから。俺もしつこいね（笑）。でもそれで

釣れたんならいいよね、茶化してんじゃなくってさ。ナジミ幅にこだわらずとも、江成君にとっては「いつもの」いい動きになつたんだからね。

さて、こういうケースを理詰めで説明するとなると、二つの要素が考えられると思う。

一つは、仕掛けの角度の問題。底釣りにおいてのナジミとは何かという話で出ていた言葉だ

けど、この角度は水深に比例するよね。流れが多いんですけど、とりあえずいつものナジ

ミを目指してズラしていくけど、かな

りウキを上に上げないといつものナジミには

なりません。深い気がします。逆に、いつものナジミになるまでズラしたんじゃイマイチの時があります。深い分、魚が素直だからシモリ

っぽい気味でも食うのかな？なんて考えて

みたんですけど、わけ分かりませんでした。

北：流れがあれば穂先で引っ張ってもシモリ、江成君のズラした釣りのデータはあてにならないからなあ（笑）。ナジミ気味の設定でアタるのなら、ズラしてアタリが出ない事はないんだから。俺もしつこいね（笑）。でもそれで

二つめの要素はウキとオモリの間の距離に応じたレスポンスの差だと思うよ。同じ力で道糸

を張るウキという前提でも、ウキとオモリの間隔は水深で当然変わってくる。これは伝達力に差があるということ。糸電話の糸のように、長さに比例して力も増減するわけだ。水中はこの二つの要素がからみ合っている。ある時はナジミを自安に、またある時はナジミを疑つて釣り組み立てなければならないわけだね。ひどい

時は、本当に（実際に）結構ズレているのに戻りが甘いなんていう状態もあるはず。これで

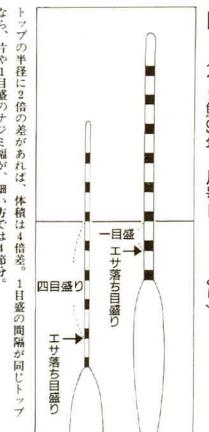
は、釣りが組み立てられないね。ここまで追い込まれたら、いくらか人間都合を優先させてもいいだろうね。つまり、魚の都合を優先させる事から考えるトータルバランスのとれたセッティングの一部調整が必要なんだ。具体的には、少し戻りの強いタイプのボディ形状のウキ

で、一段トップも太めでいいかもしない。同じタイプでサイズアップでも効果はあるけど。浅い底釣りで、どうしてもウキの動きが氣に入らない時は逆に、細いトップもいいだろう。

江：なるほど。じゃあ僕の長竿いっぱいの底釣りの時の深ナジミは、レスポンスの差だったつてわけですね。（笑）。

北：それは「自分なりの基準」で判断願います

図6 へら鮎'91年2月号P.178より



トコの半倍に2倍の差があれば、体積は4倍差。1倍盛の間隔が同じトップなら、片や、自盛のナジミ船が、細い方は4倍分。

図7 へら鮎'91年2月号P.180より



トコの半倍に2倍の差があれば、体積は4倍差。1倍盛の間隔が同じトップなら、片や、自盛のナジミ船が、細い方は4倍分。

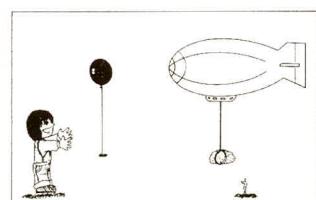


図5 へら鮎'91年2月号P.180より  
小さな風船と大きな飛行船は共にバランス状態。小さな力で動くのはどちらか。これには物体の質量が関係してくる。つまりこれが「慣性」

# 釣番付

## 料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

## 書体見本

1. ぐりへあ鮎会
2. ぐりへら鮎会
3. ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

## ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300枚で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合  
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江東区）  
03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）  
044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）  
03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）  
044-711-8266

鮎仙人（神奈川県川崎市）  
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
あとりえぐり

<http://www.office27.com>  
E-mail:info@office27.com

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける…

# へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.446  
Feb.2003 2

## 特集

彼らはいかにしてメジャートーナメントを制したのか？

# 栄光を掴んだ男達 PART II

こだわりの店 黒べゑ 提供

超豪華！  
新春お年玉プレゼント

## 特集II

冬のクワセエサを制覇する!!

# ウドンのすべて 後編

稻毛利夫/野本昌明

友部湯崎湖に戦慄が走る…！

棚網 久の対決mode 1,2,3 !

チャレンジャー

天笠 充vs中島 上

話題騒然…!?

## 業界のタブーに迫る！

「どうしたらモニターになれるのか？②」

謎の新連載登場!?

最狂へら戦士養成所

## “鮎の穴” 高橋謙司

小池忠教/杉山達也/吉川ひとみ  
山内研作&生井澤聰/田辺哲男  
北川穂積/西田美明/小林恭之  
江成公隆/北城錦/稻毛利夫  
天野正由/吉本亞土



好評連載中！

名手・石井旭舟がいく、へら鮎出会い旅…

へら  
ぶな  
浪漫街道

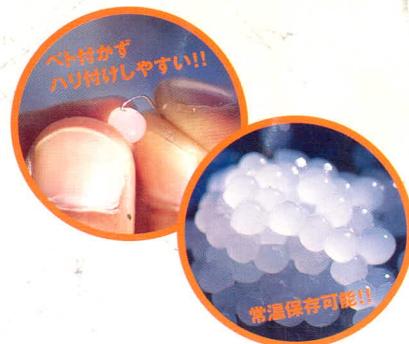
石井旭舟、横利根浪漫。

冬季  
限定

### 新感覚! わらびウドンタイプの粒状くわせエサ

使いたいとき、すぐに使える、便利な粒状くわせエサ。浅ダナから深宙、段差の底まで、あらゆる冬のセット釣りに適した、軽いわらびウドンタイプです。ベタ付かないから、ハリ付け時に指先を濡らさなくてOK。常温で保存できるから、余った分は次回の釣行に使えます。出来合いのくわせながら、侮れない食いのよさ。この冬、注目の「力玉」は、3月までの期間限定発売です。

**力玉(ちからだま) ¥400**



**「マルキュー オリジナル  
モバイルクリーナー」が当たる!!**

「力玉」のラベルに付いているキャンペーン応募券1枚を1口として、必要事項をご記入のうえ、官製ハガキでお申し込みください。抽選で合計1,000名様に「マルキュー オリジナルモバイルクリーナー」をプレゼント。最終締め切り 平成15年3月31日(当日消印有効)。詳しくは、「力玉」のラベル中面をご覧ください。



**九** フレーラーエサづくり一筋  
**マルキュー**

本社・橋川工場 埼玉県橋川市赤堀2-4 TEL: (048) 728-0909 (代) FAX: (048) 728-3909  
TEL: (048) 728-0909 (代) FAX: (048) 728-3909  
大阪支店 大阪府寝屋川市楠根南町12-14 TEL: (072) 824-0909 (代) FAX: (072) 825-0909

四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 TEL: (0877) 44-0909 (代) FAX: (0877) 44-3909  
九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 TEL: (0942) 82-0909 (代) FAX: (0942) 83-0909

<http://www.marukyu.com/>  
釣り場でエサに困ったらモード・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>